

かったが、前田さんたちに依頼されて経済資料協議会のために文部省の科学研究費を何度も何年も獲得し、協議会のためにさまざまな活動を試みた。しかしそれらの試みも、前田さん達が機関加盟機関から退職した後の経済資料協議会の興味を引かなかったようである。

日本学術会議の図書館情報関係の専門委員を永年続けていたが、18-19と2期、第3部の経済統計研究連絡委員会委員長として会員になったが、選ばれて学術基盤情報常置委員会の委員長も勤めいくつかの対外報告をまとめた。その間国際ドキュメンテーション連盟 FID の崩壊にも立ち会った。そういう学術情報社会の変動は、残念ながら経済資料協議会の人たちの関心を引かず報告を求められなかったし、その対外報告が協議会の活動に影響も与えることなく、任期が終わった。時代の変化を反映して経済資料協議会が存続の工夫は出来なかったかを、書いて残したかった。

経済資料協議会と出会わなければ・・・

大日方 祥 子

(日本大学生産工学部)

現在は経済学と縁の薄い工学系の、しかも図書館ではなく入試センターという、言わば大学の営業部門に勤務していて、日々受験生集めと、各種入試の準備や実施に追われる仕事をしています。

30歳代後半という仕事が面白くてしょうがない時期に経済資料協議会（以下、経資協）と出会い、その活動に参加してのめりこんで行きました。加入してまもなく『文献季報』の危機に直面し、季報検討委員会に加わり、声の大きいのと図々しさが災いしてその後の東部会総会で、日大経済学部が理事機関に選出されてしまいました。さあ大変、日大経済の現場はそんな大それた役を引き受ける雰囲気では決し

てない、総会後の大好きな懇親会にも出席せず、大急ぎで職場に戻り課長に「どうしょう、理事機関に選ばれてしまった、無理ですよ」と報告したところ、まったく予想に反した返答「いいんじゃない、やれば」ですって。

それ以来4期8年、経済学部から異動になるまで、他の力量ある理事の方々に助けられ、迷惑をかけながら何とかやってきました。私の異動後の理事選で日大経済は選出されないための選挙運動(?)を行い、その後は悲しいかな経資協を退会したというニュースを身を切られる思いで聞くことになったのです。

10数年の経資協とのお付き合いの中で、図書館員生活にとって非常に役に立ち、成長を助けてくれた特記すべき活動が2つあります。ひとつは『文献季報』のための論文採録作業です。一番多いときは30種類の雑誌を担当していました。非力のため苦労しましたが、論文の前書き・後書きを読み、参考文献を調べるなど、日常のレファレンスワークに大いに役立ちましたし、経済学の学問動向を知ることによって個人的にも関心を深めることにつながりました。もうひとつは、ビデオ『経済文献の達人』作成に関わり、知らない世界をいろいろ知りました。出演して下さった劇団の方とは今でも付き合い、その劇団の芝居はほとんど観ています。

経資協と出会わなかったら、きっとかなり貧しい図書館員生活を送ったことと思います。

経済資料協議会の活動に参加して

小 川 喜久雄

(元東京経済大学図書館)

私は、1996～2001年度まで、経済資料協議会（以下、経資協）の